

## 平成27年度第1回「大分県食品安全推進県民会議」ご意見等

ご意見等の概要	県の考え方・取組状況等	関係課
---------	-------------	-----

### 【第3次行動計画の結果について】

<p>食育について、弁当の日というのが福岡や日田の一部ではやられているようだが、大分県では全県的に行う予定はあるか。(細川委員)</p>	<p>地産地消の取組ではあるが、量販店の協力を得て、弁当の日や体育祭に併せてレシピや地域の食材を置かせてもらったりする予定である。 県下の実施状況は把握していないが、給食実施主体である市町村には弁当の日の推進を説明している。取組をしているところはそのまま継続してもらい、取り組んでいないところは11月前後をお願いする。8月10日に広報番組(おおいた捕物帖)で佐伯市内の中学校における弁当の日を取り上げてもらう。メディアを通じてこれからもPRをしていきたい。</p>	<p>食品安全・衛生課 体育保健課</p>
<p>GAPの普及拡大について、平成26年度実績値が7,963となっているが、どういうカウントの仕方をしているか(栗田委員)</p>	<p>取組段階に応じて、基礎、普及、標準とランク分けをしているが、このうち、基礎GAPが5,969、普及GAPが1,801、標準GAPが193となっている。</p>	<p>おおいたブランド推進課</p>
<p>「食品衛生監視指導計画」はどこが策定しているか。また、去年の収去の結果を教えてください。どれくらい検査して、どういう結果だったのか。(内田委員)</p>	<p>食品衛生監視指導計画は食品安全・衛生課が策定している。食品の収去858検体と施設内のふきとり検査1,035件、計1,893件。規格基準違反はなし、県指導基準違反は85件、アレルギー表示不適切2件、衛生規範違反4件であり、不適合と判断されたものは計91件であった。</p>	<p>食品安全・衛生課</p>

### 【第4次行動計画について】

<p>GAPを取り入れた認証制度について、消費者への広報は行われているか。(鈴木委員)</p>	<p>今後、県の広報紙やマスコミを通じてPRしていく予定。</p>	
<p>新たな認証制度の手続きについて、末端(生産現場)まで伝わっていないようである。どういう手順をすればいいのか。(森山委員)</p>	<p>認証制度は振興局の生産流通部で対応している。制度の宣伝についてもこれからもマスコミ等を通じてPRしていく予定。</p>	
<p>認証された農家のものと、認証されていない農家のものが並んでいたら、スーパー等では消費者は認証されたほうを選ぶと考える。ただ、高齢者は楽しみで農業をやっている人もいる。認証をとるまでにいたらない人が多いと思うが、そういう人達が作っている作物はどうしたらいいのか。制度はいいが、バランスを考えてほしい。(森山委員)</p>	<p>(ご意見)</p>	<p>おおいたブランド推進課</p>
<p>道の駅などで売られているものは生産者が書いてあり、顔が見えて安心といって買う人もいる。楽しみで農業をしている人はスーパー等の大型店には卸さないとと思うので、棲み分けができていますので特に問題ないのでは。(宮崎委員)</p>	<p>(ご意見)</p>	
<p>顔がみえるから安心という意見があるが、安全というのは、根拠があるから安全なのである。身内の話になるが、使用量が少ないためにスポイトで計らなければいけないような農薬を(ボトルの)キャップでと計量してまいていた。それが安全と言えるか。小さな農家でも農薬の使い方を学び、消費者の安全を考えるべきである。(栗田委員)</p>	<p>(ご意見)</p>	

<p>健康食品の監視指導はサプリメントも含まれているか？補助食品が市場にあふれていると感じるが成分とその表示に疑問を感じる。(芥川委員)</p>	<p>検査は強壯剤の他、脱法ハーブなどを対象としている。ダイエット食品ということであれば、市販されているもの全ては把握していないが、全国的に医薬品成分が入っているか否かの検査を実施しており、違反事例も発見されている。</p>	<p>薬務室</p>
<p>学校給食での地産地消の推進において、まるごと(県産品)実施回数が年1回は少ないのではないかと。せめて学期に1回くらいはやってほしい。給食費との兼ね合いはあるのか。(高橋委員)</p>	<p>給食費との兼ね合いというのはわからない。1回というのは、11月19日を食育の日としているので、それに合わせて行っている。市町村によっては、月ごとや学期ごとに行っているところもある。</p>	<p>体育保健課</p>
<p>地産地消の日は多いほどよいと思う。弁当の日については、地元の食材、ごみ問題、食材の選び方など色々な事を学ぶいい機会になる。ぜひ取り組んでほしい。(高橋委員)</p>	<p>(ご意見)</p>	<p>おいいたブランド推進課 体育保健課</p>
<p>安心いちばんおいいた産農産物認証制度と標準GAPの認証取得推進で500という目標値はどういうカウントなのか。(細川委員)</p>	<p>安心いちばんおいいた産農産物認証農家数と標準GAPの農家数を合わせて500という設定にしてる。安心いちばんおいいた産農産物認証は標準GAP農家でなくても取得が可能であり、GAPの取組の中で食の安全に係る13項目を管理できていれば認証される。残留農薬検査も事前に行い、生産履歴も確認したうえで認証する。</p>	<p>おいいたブランド推進課</p>
<p>GAP取組農家数の目標値が9,000とあるが、基礎になる農家数はどれくらいあるのか(細川委員)</p>	<p>2010年の農業経営体数調査では県内の農家数は約3万戸。目標としてはその約3割となる。</p>	<p>おいいたブランド推進課</p>
<p>安全・安心な魚のPR活動について、目標値の4回は少ない。実績として佐伯など県南部が多いのではないかと。各振興局単位で4回はやってほしい。安全・安心から販売拡大につながればよいと考えている。どうしたら生産者の収入増につながるかを考えてもらいたい。(細川委員)</p>	<p>予算が限られている。これまでの開催は大分市以南であった。今後は全県に広げていくことも検討したい。</p>	<p>水産振興課</p>

【その他】

<p>食品表示のうち、健康に関する表示についての指導窓口はどこになるか。(鈴木委員)</p>	<p>各保健所で指導を行っている。</p>	<p></p>
<p>食品表示はわかりにくい。パンフレットにあるアレルギー表示については個別表示、一括表示どちらでもいいのか。分かりづらいので消費者にも行政が説明しないといけないのでは。(内田委員)</p>	<p>アレルギー物質の表示は個別表示が原則となるが、一括表示も認められる。消費者向けの説明も適宜行っていきたい。</p>	<p>食品安全・衛生課</p>